

令和6年度 第2回美術館運営協議会会議録

1 日 時 令和7年2月7日（金） 午前10時30分～午後11時45分

2 開催場所 豊田市美術館 ワークショップルーム

3 出席者

〔委員〕

正村美里 高橋綾子 鈴木早紀恵 岩田雅子 佐藤陽子 加納里美 平野敬一
吉留亜弥 茂木明子 （以上9名） 欠席：山田百合子

〔事務局〕

高橋秀治 田境志保 北谷正雄 塚田恵理子 鈴木俊晴 成瀬美幸 大原右子
大柳良輔 （以上8名）

4 会議の経過

館長あいさつ、会長あいさつ、その後、議事録署名人として、会長自らを含む2名（高橋委員）を指名した。続いて、令和6年度の展覧会等実績及び高橋節郎館リニューアルについて報告した後、各委員より意見を聴取し、次年度の展覧会について報告した。最後に、全体をとおして意見を聴取し終了した。

5 会議内容

事務局

（1）令和6年度開催展覧会の実績報告について

資料1により企画展「エッシャー 不思議のヒミツ」開催実績を説明

事務局

資料1－1により教育普及に関するイベント及び博学連携事業について説明

事務局

（2）高橋節郎館リニューアルについて

資料2により高橋節郎館リニューアルについて説明

【各委員からの意見】

委員

エッシャー展が盛況でよかった。自分の周りでも、面白そうなので子どもと出かけたいといった声があった。チラシを見た段階で興味を持った人が多かったと思う。また、観覧前後に街なかの飲食店等を利用してくれた。詳しい利用者数は分からないが、その中でもう一度観覧したいという声もあった。

会長

観覧前後に街なかに寄った人が多かったということか。

委員

詳しい利用者数は出ていないが、観覧チケットの半券を提示すると特典をもらえたり、飲食代等が割引になったりするサービスを実施した。来館者が多かったのも、それに比例して半券サービスを実施した人も多かった印象である。

委員

エッシャー展を観覧したが、家族で楽しめる体験コーナーがあり嬉しかった。写真撮影コーナーの看視スタッフが親切だった。展覧会の案内等がデザイン性の高いオシャレなもので、さすが美術館だと感じた。

委員

交流館で連続美術講座を実施していただいたが、交流館については他の場所と比べて参加者が少なく申し訳ない。美術館からの広報はどのように行ったのか。

事務局

チラシを作成し市内交流館等に配架し、その他では美術館ウェブサイト、SNS等で周知した。美術館からの広報以外では、会場となった病院やカフェからも情報発信してもらえたので、その効果も大きいと思う。

会長

交流館での告知はどのように行われたのか。

委員

地域の回覧版、交流館ホームページ、館内掲示など交流館のルートで広報した。

会長

美術館と交流館の間で広報のやり方など情報共有することで、より効果が増すと思う。

委員

博学連携事業や教職員向け研修でお世話になっている。

高橋節郎館のリニューアルについて、気になることが2点あった。1点目は、漆作品の作り方を知りたい人が子ども含め多数おり、改修前にエントランスに設置されていた作品制作ビデオの放映を検討してほしい。2点目は、高橋節郎の図録を今後も作成してほしい。

事務局

改修前にビデオを放映していたエントランススペースは、改修後展示室になっているため映像機器を設置していないが、今後どこで放映できるかを検討する。図録については、皆さんに親しんでいただけるのはありがたいので、足りなくなった場合は増刷で対応したい。

職務代理

企画展だけではなくコレクション展「増殖とループ」の観覧者も伸びており、企画展と関連したコレクション展も鑑賞されていることが分かる。

アンケートを読んで感じたことは、体験コーナーを車椅子利用者が体験できない点が気になった。また、過去の美術館館長が「今後の豊田市美術館はホスピタリティに力を入れる」といった趣旨の発言があったが、アンケートにスタッフが親切であるとの感想があり、その取組が実践されていることが分かった。

テレビでエッシャー展の特集を観たが、担当学芸員である北谷主幹の解説が分かりやすく、観に行きたいと思わせてくれた。それもまた美術館としてのホスピタリティの表れであり、長年の経験の蓄積によるものだと思う。

博物館実習では勤務先（名古屋造形大学）の学生がお世話になった。学芸員のディープな話を聞けて良かったという感想もあり、感謝している。

会長

車椅子の件について事務局から対応策などあれば聞かせてほしい。

事務局

エッシャー展の体験コーナーについては、造作の仕組や配線の都合上車椅子対応ができなかった箇所があり、申し訳なく残念に思っている。今後はバリアフリーに考慮して対応したい。

会長

バリアフリーについてはどの美術館でも課題になっており、展示物の間を車椅子が通れる幅になっているか、車椅子利用者の目線の高さで作品鑑賞に支障がないか等を考慮する必要がある。

事務局

1点補足すると、展示室内の体験コーナーは基本的には車椅子に対応した造りになっていたもので、その点をご承知おきいただきたい。

委員

豊田市美術館は新たな試みを実施することと、PDCA を確実に回していることが素晴らしい。

エッシャー展は家族で観覧した。息子が鑑賞後「自分も作品を作りたい」と言っていたので、館内で来館者がアウトプットできるものがあると良いと思う。

「しないでおく、こと。」展については、大学生の従妹が観覧したが、「様々な物事について、敢えてしないでおくという選択肢がある」「しなくてはいけないとされていることは、本当にしなくちゃいけないのか」など、色々と感じるところがあり、鑑賞当日でなくても良いので、作品に関する学芸員やガイドボランティアの解説を、文字情報だけでなく音声で聞けるものがあれば良いのにと言っていた。

託児について、定員がのべ 60 人のところ利用者がのべ 28 人ということだが、利用した子どもの年齢にばらつきはあったか。

事務局

ばらつきはなかった。

委員

エッシャー展は小さい子どもでも楽しめる内容なので、託児サービスを利用した子どもは年齢が低いかと推測した。定員の枠は展覧会によって増減すると思うし、エッシャー展については定員に対し利用者が少なかったが、今後も続けてほしい。

事務局

今回は日数を多く設けたので、その枠の中で都合の良い日を来館者には利用していただいた。また、基本的に事前予約制としており、埋まった枠に託児スタッフを手配するという段取りを取っている。美術館が設定した定員を下回っているので効果が薄いというわけではない。

委員

託児サービスは特に平日枠の設定がありがたい。博学連携事業について、事前に各学校の要望ヒアリングしていることがすごい。事業内容について要望が特にない学校に関して、他学校の事例を紹介することはあるのか。

事務局

他学校の事例を紹介するほか、博物館の事例から内容を練ることもある。博物館での事業は先方からの希望が多いが、美術館は割と学校から任されることが多い。

委員

事例の共有をすると効果的だと思う。

事務局

博学連携事業は小学校6年生と中学校2年生が対象で、たとえば小学生なら担任の先生又は学年主任の先生と内容を話すことが多い。まずは6年ほど継続して取り組むことが大事だと考えている。

会長

アクセシビリティとして作品解説に関することと、博学連携の話題が出た。学校の美術の教諭が激減している影響で、勤務先である岐阜県美術館では学芸員又は教育普及担当者が生徒に対し鑑賞教育を行ってほしいという要望がある。豊田市美術館の博学連携事業の対象学年を固定化し、毎年継続していくことで最終的に全ての学年を網羅するやり方は素晴らしいと思う。

委員

来年度モネ展が控えており多数の来館者が見込まれるが、混雑対策を教えてほしい。また、アンケートに「写真撮影に関する注意書きを紙で配るのは煩雑」という意見があったがSDGsの観点からどう考えているか。

事務局

モネ展は来館者が多いことがあらかじめ想定されているので、対策を検討中である。写真撮影に関する注意点については、展覧会ごとにルールが違うので無くすのは難しい

逆に、来館者からあらかじめ注意事項が書かれていないと困るというクレームを受けることもあるため、バランスを考えながら記載事項を検討している。

会長

写真撮影について、豊田市美術館は開館時から許可しており注意事項も配布していた。当時は画期的だったが、現在では撮影を許可する美術館も増えてきた。美術館へ頻繁に行く人にとっては知っている内容を再度説明される気持ちになることもあるため、今後紙を減らしていくことも可能かと思う。

委員

エッシャー展はとても面白かった。再度知り合いを誘って複数回観覧した。人気のある展覧会だったので近隣の渋滞を気にしていたが、自宅から自家用車を出し入れできない等の苦情は聞いていない。高橋節郎館がリニューアルされ、ゆっくり観覧してみたい。

美術館、高橋節郎館、博物館まで通り抜けられるようになって良かったという声を地域の人々から聞いている。ウォーキング等、地域のイベントで活用も考えている。

博物館が開館したことで、美術館の動向が変わったことはあるか。

事務局

博物館ができたことで美術館へ寄ってくれる方が増えた。また、博学連携をはじめ両館で連携する意識も高まっている。展覧会については別々の施設なので全く同じ内容の企画は難しいが、展覧会の時期や開催内容を連携して検討している。また、高橋節郎館エントランスホールに設置されたサイネージから民芸館を加えた3館の情報を発信することで、それぞれが連携し豊田市の文化施設を盛り上げていくという意識が強くなっている。

委員

今後、美術館と博物館がコラボレーションした企画を開催する予定はあるか。

事務局

博物館で4月に開催する「岸田吟香と岸田劉生」展について、岸田劉生の作品は美術館に所蔵があり、また岸田吟香は挙母藩の方なので、隣接する美術館を意識した企画になっている。また、来年度博物館で開催する「織田信長」展の会期中、美術館は展示替え休館だが高橋節郎館は開館し回遊性を高めたいと考えている。そういった形で、何らかの関連を持ちながら企画を行っていく。

事務局

博物館の開館による影響について、博学連携事業の実施もあり肌感覚として小中学生の来館がぐっと増えた。これを契機にして学校との協力を進めていきたい。

会長

博物館は開館して1年足らずで、また展覧会は3年ほど前から準備するため、今後徐々に連携が進んでいくことと思う。

事務局

(3) 次年度の展覧会について

資料3により次年度の展覧会について説明

【全体を通した意見】

委員

来年度モネ展の会期と同時期に博物館でエジプト展が開催される。駐車場の混雑が予想されるが対策は考えているか。

事務局

駐車場対策については関係者に迷惑をかけないように検討中である。案としてシャトルバスの運行や臨時駐車場の設定が出ており、決まり次第公表する。

委員

連続美術講座について、市内の若園交流館では改修後、現地がお茶どころということにちなんでお茶室ができた。そういった場所で講座を開催するなら、お茶の体験と講座をセットにするなど検討していただきたい。また、交流館は大きな多目的ホール、調理室、楽器の演奏ができるスペース、ロビーなどを備えた多機能な施設なので、美術講座等の際に活用していただきたい。

事務局

交流館の参加者も昨年度と比較して増えているので、今後も講座開催の際は協力をお願いしたい。

委員

来年度開催の「アンチ・アクション（仮）」展では、ワークショップで何をする予定か。

事務局

展覧会の内容自体未定の部分が多く、今後具体的に企画内容が決まり次第、詳細を詰めていく。取り上げる予定の作品は、いわゆる絵画にとどまらずコラージュ的なものもあり、ワークショップの題材として展開できそうなものが多いと思う。意見としていただいた簡単なワークショップも良いと思うので、展覧会の内容を加味して検討する。

委員

作品を作って持ち帰れるワークショップがあれば良いと思う。

委員

来館者が美術館ウェブサイトからダウンロードし、取り組めるようなワークショップがあるといい。

事務局

音声解説について、コレクションについては美術館ウェブサイトから聞くことができる。

ウェブサイトの拡張可能性は常に検討している。今後も意見を取り入れながら検討する。

事務局

学芸員によるギャラリートークについては、インスタライブのリアル動画という形で解説を聞けることもある。現在開催中の「しないでおく、こと。」展は聞けるので、利用してほしい。

会長

SNS を含めネットで配信されたことは、結果、その館の事業のアーカイブにもなるので重要である。美術館ウェブサイトからダウンロードして行うワークショップも他館で事例があるので、参考にしてほしい。

以上で協議事項を終了する。

会議録署名者

会長 正村 美里

委員 高橋 綾子